

令和3年度 Sport in Life 推進プロジェクト

(スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験)

「部活動に代わる中学生の新しいスポーツ実施環境創出による
スポーツ参画人口の拡大プロジェクト」

事業報告書

令和4年2月18日

スポーツデータバンク株式会社

令和3年度 Sport in Life 推進プロジェクト
(スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験)
「部活動に代わる中学生の新しいスポーツ実施環境創出による
スポーツ参画人口の拡大プロジェクト」
事業報告書

目次

1. 本事業の目的
 2. 本事業の実施概要
 - (1) 本事業のターゲット
 - (2) ターゲットのスポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説）
 - (3) 本事業で期待される効果
 3. 本事業の実施内容
 - (1) 事業の実施概要
 - (2) 事業の実施結果
 4. 本事業の実施体制
 - (1) 本事業の実施体制
 - (2) 本事業の実施スキーム
 5. 事業の実施効果（スポーツ実施頻度、実施意欲の改善効果）
 - (1) 効果検証方法
 - (2) 効果検証の結果
 6. スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証）
 7. 本事業から得られた波及効果
 8. 今後の事業展開予定
 - (1) 事業継続や横展開に向けたポイント、課題
 - (2) 次年度以降の事業継続、横展開の計画
 - (3) 今後の事業展開に向けて期待される Sport in Life プロジェクトにおける取組
 9. 終わりに
- 参考資料 アンケート調査票・分析結果詳細

1. 本事業の目的

本事業は Sport in Life コンソーシアム加盟団体の民間企業・地方公共団体が連携し『中学生のスポーツ実施を妨げている要因の解決』の先進事例の形成を広域的に目指すものである。ターゲットを無関心層・中間層アスリート志向の3つに分類しアプローチを行うとともに、地域スポーツチーム等と連携した講演会も実施し、スポーツへの興味関心を高める取組みも行う。

また、当事業は中学生のスポーツ実施の環境を『学校部活動』という環境に依存してきた点に着目し、新たなスポーツ実施環境づくりに重点を置き事業を推進する点が特徴である。事業の成果は、全国の自治体の共通課題に対する先行事例として共有し、次年度の事業展開に向けたノウハウを蓄積することを目的とする。

2. 本事業の実施概要

(1) 本事業のターゲット

本事業では、構成団体の地域（日野市・泉大津市・糸満市）の公立中学校の生徒をターゲットとした実証実験を実施する。さらに、ターゲットを「運動部活動・地域スポーツクラブに所属・未所属」「運動・スポーツをすることが好き・嫌い」を組み合わせた下記のA～Cの3グループに分け、各グループに効果的なアプローチの実証と検証を行う。

		【重点度】 高 ←————→ 低			
ターゲットカテゴリ		A		B	C
生徒 (中学生)	運動部所属	未所属		所属	
	思考	運動・スポーツ嫌い	運動・スポーツ好き	運動・スポーツ嫌い	運動・スポーツ好き
		無関心	苦手	楽しみたい	アスリート

● ターゲットの現状

① 学校の部活動や地域のスポーツクラブへの所属

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、部活動運動部または地域のスポーツクラブに所属していない生徒の平均は26.8%（男子15.6%、女子38%）となっており、体育などの授業以外での運動・スポーツを定期的に行っていない生徒数は全国で約80万人いると推測される。



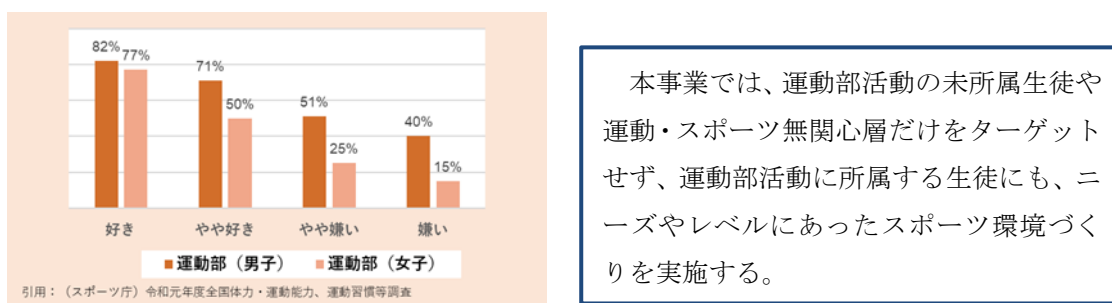
②運動・スポーツをすることが好きであるか

同調査で「運動やスポーツをすることが嫌い」の割合の平均は15.9%（男子10.8%、女子20.9%）となっており、全国で約47万人の生徒数となる。第2期スポーツ基本計画で掲げる目標値の8%以下から大きく離れている。



③運動・スポーツをすることが好きであるか

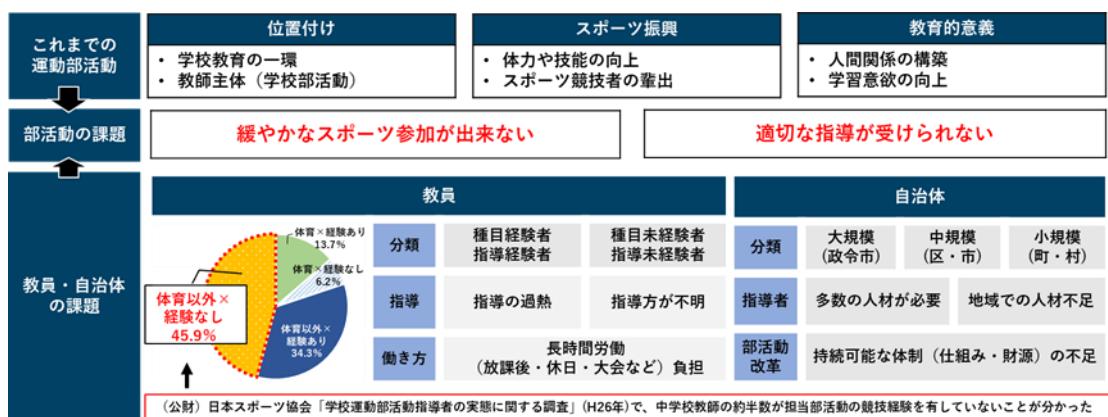
同調査で運動部活動に所属している生徒（「運動部のみ」「運動部+地域のスポーツクラブ」「運動部+文化部」「運動部+文化部+地域のスポーツクラブ」）においても、「運動・スポーツをすることが嫌い」と回答する生徒が存在する。運動部活動に所属している生徒でも、環境によって（適切な技術指導が受けられないことなど）生涯にわたるスポーツ実施に繋がらないことを示唆している。



(2) ターゲットのスポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説）

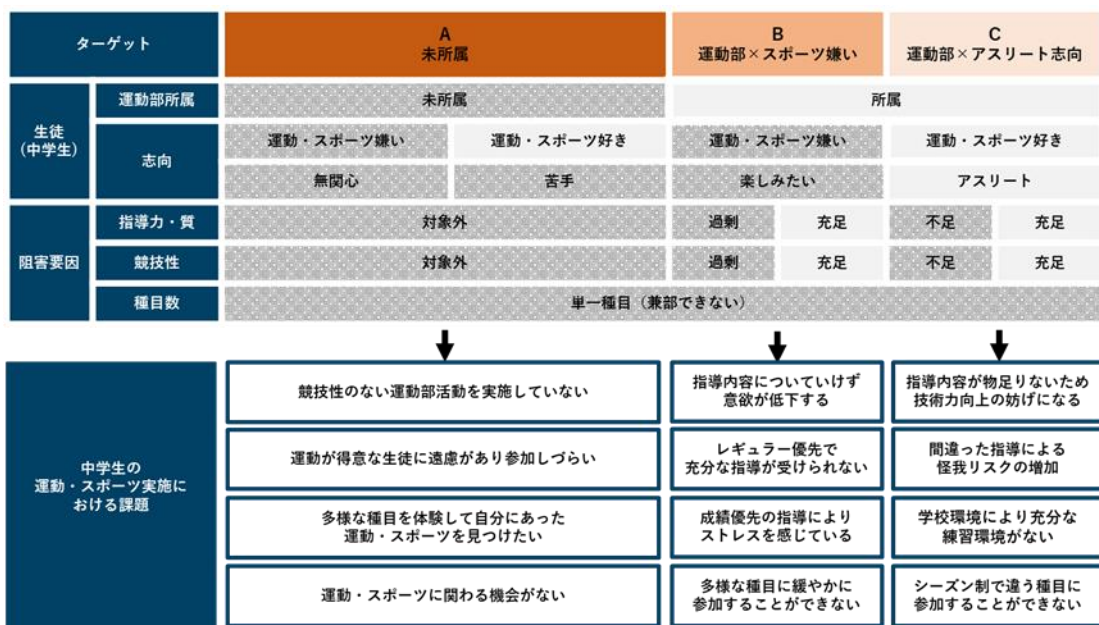
我が国における中学生のスポーツ実施・振興を支えてきたのは、「学校における運動部活動」である。しかし、現在の学校部活動は緩やかなスポーツ参加など生徒の多様なニーズに対応できる環境が整備されておらず、自治体・学校が単独で解決できている事例は少ない。また、下図で示す通り教員の45.9%が担当部活動の競技経験がなく、生徒に対して適切な指導が行えていないケースが存在する。

さらに、令和2年9月に文部科学省は全国に「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」を通知し、休日の部活動の段階的な地域移行（令和5年度以降）を明文化しており中学生のスポーツ実施の推進と学校部活動改革は切り離すことはできないといえる。



● ターゲットと課題の整理

当事業におけるスポーツ実施を阻害する要因と、ターゲットを3つのグループに分類し、各ターゲットに及ぼす影響を以下の図の通り整理し、**中学生年代の影響は将来におけるスポーツ参画人口にも大きな影響を及ぼすと仮説を立てることとする。**



(3) 本事業で期待される効果

本事業によって期待される効果は以下の通り。

①ターゲット別の効果

ターゲット	期待される効果
運動部未所属	<ul style="list-style-type: none"> 運動機会のきっかけ作り、苦手意識の軽減・継続的な運動実施意欲の向上
運動部所属	<ul style="list-style-type: none"> 専門指導による苦手意識の軽減・継続的な運動実施意欲の向上 コロナ禍による体力低下・怪我の増加の改善

②アンケート調査による効果

調査項目	期待される効果
運動・スポーツすることが好きの割合	全体の割合 5%向上
運動・スポーツ実施機会の増加の割合	運動部未所属生徒 30%向上

3. 本事業の実施内容

(1) 事業の実施概要

当事業では、プロジェクトチーム（以下、PT）と地域のプロスポーツなどのステークホルダーが連携し、学校部活動におけるスポーツ実施の阻害要因の解決を目指す。本年度の主な事業の概要は以下の通りである。

① ターゲット別アプローチ	<p>当事業のターゲットを3つのグループに分類し、それぞれのターゲットに主にPTが保有・連携する人材やリソースを活用した効果的なアプローチを実施する。</p> <p>また、PT以外にも各地域のスポーツチーム（プロ・実業団）・スポーツコミッション・総合型地域スポーツクラブなどとも連携をした、取組みを行う。</p>
② 地域間連携 (合同検討会の開催)	<p>異なる複数地域で実証を行うことで、共通課題について地域の枠を超えた情報共有を行い、国内全体での課題解決に向けた機運を醸成する。また、先進事例を持つ地域や、将来的な当事業や地域部活動への移行を予定する他地域とも連携し、次年度以降の事業展開の準備を行う。</p>
③ ターゲットの拡充	<p>中学生のスポーツ実施における課題解決をきっかけとして、地域全体のスポーツ実施環境づくりについても検討を行う。対象中学生の保護者の参加・対象中学校を活用した地域住民の参加などの機会の設定を検討する。</p>

① ターゲット別アプローチ

・専門指導者の招聘

本事業の実証地域となる教育委員会（PT）と連携を行い、3つのターゲットと実施内容を調整する。**最重点ターゲット A**については、平日の放課後または休日に新たなスポーツ機会として**専門指導者を招聘し、事前に参加者を募集して実施**する。ターゲットB・Cについては部活動実施時間（平日または休日）に**専門指導者を招聘し指導**を実施する。

また、特に非競技種目については、体育（授業）・総合学習等の時間を活用して実施を行う。授業等で専門指導者を活用したプログラムを実施することは、運動部未所属生徒に対する**運動機会のきっかけ作り・苦手意識の軽減・継続的な運動実施意欲を向上**の効果が、運動部所属生徒に対しては、コロナ禍において運動実施（部活動）等の制限による影響が懸念されている**体力低下・怪我の増加を改善**する効果が期待できる。

ターゲット	A	B	C
	未所属	運動部×スポーツ嫌い	運動部×アスリート志向
アプローチ	*非競技種目（ヨガ・ストレッチ・ボクササイズなど）の実施	*レベル別・段階的技術指導 *非競技種目（ヨガ・ストレッチ・ボクササイズなど）の実施	*専門性の高い技術指導 *コンディショニングやメンタル指導
実施方法	<対面>学校体育・特別授業 <対面>放課後		<非対面>オンデマンド・オンライン
回数	最大50回 / 地域（3地域）	最大50回 / 地域（3地域）	最大50回 / 地域（3地域）

<指導者選定について>

下図の通り、各ターゲットに対応した専門指導者・インストラクターの招聘はPTが連携して実施する。PTの他には、各実証地域の地域プロスポーツチームや総合型地域スポーツクラブなどと連携して候補者を選定する。選定した候補者と教育委員会・学校と調整した上で、指導を行う。



・講演会の実施

実証地域を拠点とするスポーツチーム及び関連団体と連携した講演会の実施を行う。

「する」「観る」「支える」の観点から多様なスポーツの参画について興味・関心を引き出す内容で構成し、対象者の選定は教育委員会・学校と協議の上で決定する。

講師については、以下のスポーツチーム・関連団体から招聘する。

<地域スポーツチーム(プロ・実業団)との連携>

対象地域	連携スポーツチーム・関連団体	実施回数
日野市（東京都）	コニカミノルタ株式会社（陸上競技部）	3回
泉大津市（大阪府）	一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブ	3回
糸満市（沖縄県）	琉球フットボールクラブ株式会社（FC琉球）	3回

② 地域間連携（合同検討会の開催）

当事業に参画する日野市教育委員会（東京都）・泉大津市教育委員会（大阪府）・糸満市教育委員会（沖縄県）は、令和3年度スポーツ庁「地域部活動推進事業」を各都府県教育委員会から受託しており、3つの地域は部活動改革という側面で共通の課題意識を持つ。

各教育委員会が実施する『教員の働き方改革』を起点とした部活動改革と、『生徒のスポーツ実施意欲の向上・将来にわたるスポーツ参画の阻害要因の解決』を起点とした部活動改革が融合することで「令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行」などの大きな転換に向けて、さらに多くの事例づくり・課題の抽出と体制構築が可能になると考えられる。また、同一事業を複数地域で共有し、自治体間で情報共有などの協力を行うことで、我が国の共通の課題解決を行うための機運と連動性を高めることができると考える。

一方で、「部活動改革」の推進が今後本格化するため情報共有と事例提供を求めている地域と、国内において中学生のスポーツ環境整備や部活動改革を先進的に推進する地域についても、『連携地域』として『実証地域』と併せて情報共有や事例提供を実施し、当事業の事例を次年度以降の事業展開・地域の拡大につなげる。

合同検討会は実証地域を中心に当事業期間中に1回程度開催（対面またはオンライン）し、連携地域から事例共有なども予定している。

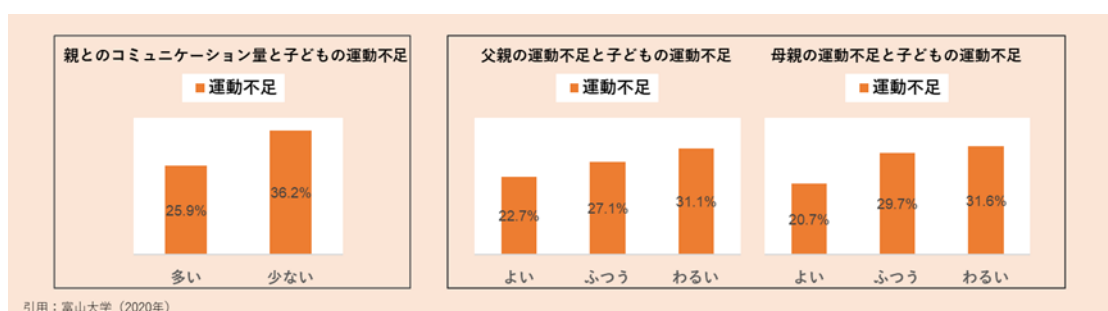
<実証地域と連携地域との合同検討会>

実証地域（当事業構成団体）	連携地域	
日野市教育委員会（東京都）	うるま市教育委員会（沖縄県）	先行事例
泉大津市教育委員会（大阪府）	旭川市教育委員会（北海道）	情報共有
糸満市教育委員会（沖縄県）	宜野座村教育委員会（沖縄県）	情報共有

③ ターゲットの拡充

当事業のターゲットは中学生であるが、富山大学の研究結果（2020年）では「子どもの運動不足」は親の生活習慣が良くないことや、親とのコミュニケーションが少ないことが比例することが明らかになっている。つまり、生徒本人だけでなく保護者の運動・スポーツの実施の意欲向上や健康意識の改革を促す機会が必要であると考えます。

当事業では、学校部活動や学校施設を活用した運動・スポーツ実施機会を醸成する取組みであることから、生徒の保護者（兄弟）も一緒に参加可能なプログラムの企画を検討する。また、将来的な「学校部活動の地域移行化」や「地域住民の運動・スポーツ活動における学校体育施設の有効活用」も当事業と連動することで、地域全体の運動・スポーツ実施環境の整備と地域におけるスポーツ振興を支える受け皿づくりの推進も可能となる。



(2) 事業の実施結果

● 新型コロナウイルス感染拡大に伴い実施が中止となった事業

本事業の実施地域（東京都日野市・大阪府泉大津市・沖縄県糸満市）教育委員会および学校と実施調整を行った計画のうち、新型コロナウイルス感染拡大に伴い以下の事業が実施中止となった。

①ターゲット別アプローチ

事業	中止になった計画回数
授業・放課後での実施	休校・部活動停止による実施中止(計画150回中76回)
	<地域別内訳>
	東京都日野市 授業 0回 放課後 8回
	大阪府泉大津市 授業 0回 放課後 8回
講演会の実施	休校・部活動停止による実施中止(計画9回中9回)
	<地域別内訳>
	東京都日野市 3回
	大阪府泉大津市 3回
	沖縄県糸満市 3回

② 地域間連携（合同検討会の開催）

令和4年1月中の開催を予定していたが、同時期において各地域教育委員会における新型コロナウイルス感染拡大による対応・対策等で、先進事例地域の沖縄県糸満市を含めてスケジュールの再調整・オンライン開催が困難となったため実施を中止した。

③ ターゲットの拡充

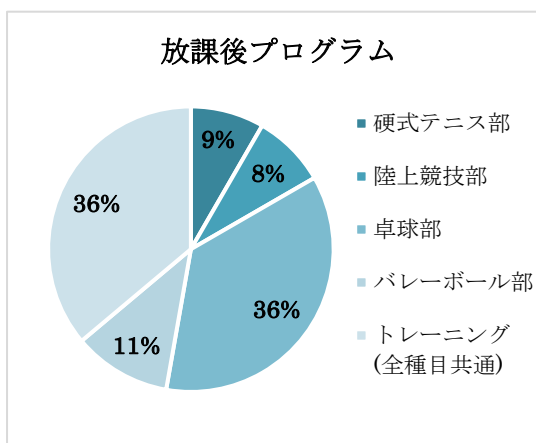
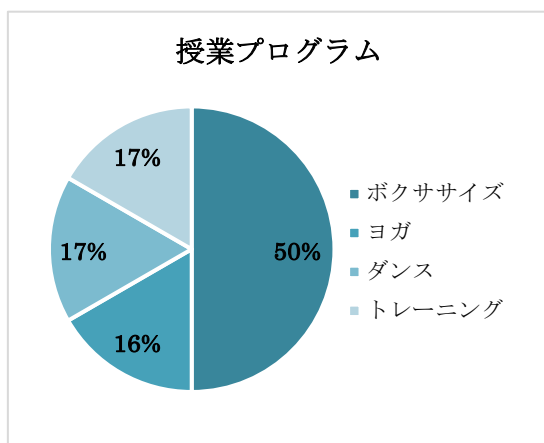
各地域教育委員会および学校と協議を行った結果、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、本事業において対象中学校の生徒のみを対象として事業実施を推進することとし、家族を含めた地域住民への対象拡大は行わずに事業を実施した。

● 実施結果

①ターゲット別アプローチ

事業	実施回数
授業・放課後での実施	休校・部活動停止による実施(計画 150 回中 74 回)
	<地域別内訳>
	東京都日野市 授業 30 回 放課後 22 回
	大阪府泉大津市 授業 6 回 放課後 16 回
	沖縄県糸満市 授業 0 回 放課後 0 回

<実施プログラム>※全地域合計



<専門指導者>

法人	回数	地域	担当プログラム	
コナミスポーツ(株) ※SIL 加盟団体	53 回	日野市 泉大津市	<授業> ・ボクシングエクササイズ ・ヨガ ・ダンス ・トレーニング	<放課後> ・硬式テニス ・卓球 ・バレーボール ・トレーニング
(株) ウエストジャパン アウトドアスクール	1 回	糸満市	/	<放課後> ・スラックライン

個人 (所属企業・団体)	回数	地域	担当プログラム	
コニカミノルタ (株) ※SIL 加盟団体	11 回	日野市	/	<放課後> ・陸上競技部 ・トレーニング
日野自動車 (株)	8 回	日野市	/	<放課後> ・卓球部
フリーランス	1 回	泉大津市	/	<放課後> ・フリースタイルサッカー

<実施風景>



ボクシングエクササイズ (授業) <提供: コナミスポーツ>



ヨガ（授業）〈提供：コナミスポーツ〉



バレーボール部（放課後）〈提供：コナミスポーツ〉



陸上競技部（放課後）〈提供：コニカミノルタ〉

4. 本事業の実施体制

(1) 本事業の実施体制

● 代表団体

名称	スポーツデータバンク株式会社
コンソ加盟	Sport in Life コンソーシアム加盟団体
代表者職・氏名	代表取締役 石塚 大輔
所在地	東京都中央区東日本橋 2-6-11 東日本橋 NS ビル 4 階
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツおよびヘルスケア事業における企画・戦略策定 ・ スポーツおよびヘルスケア事業におけるプラットフォーム構築 ・ 部活動支援事業におけるコンサルティングおよび事業推進業務 ・ その他スポーツおよびヘルスケア関連事業
PT (プロジェクトチーム) における役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業統括及び事業推進 ・ 各構成団体及び連携・協力団体との調整業務 ・ 部活動支援事業におけるノウハウ提供 ・ アンケート集計および分析業務

● 構成団体

名称	コナミスポーツ株式会社
コンソ加盟	Sport in Life コンソーシアム加盟団体
代表者職・氏名	代表取締役社長 有坂 順一
所在地	東京都品川区東品川 4 丁目 10 番 1 号
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィットネス ・ スクール ・ スポーツ施設運営受託 (PPP) ・ オンライン運動指導 ・ 法人向け運動指導 ・ 地域スポーツ支援事業 ・ スポーツ・健康関連商品の企画・開発・販売 ・ フランチャイズ事業 ・ ジャザサイズ事業
PT (プロジェクトチーム) における役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証地域での指導者調整および管理 ・ 実施部活動およびイベント等での運動指導 ・ 指導プログラムの立案と提供

● 構成団体

名称	コニカミノルタ株式会社
コンソ加盟	Sport in Life コンソーシアム加盟団体
代表者職・氏名	代表執行役社長 兼 CEO 山名昌衛
所在地	東京都千代田区丸の内 2-7-2 JP タワー
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ オフィス事業 ・ プロフェッショナルプリント事業 ・ ヘルスケア事業 ・ 産業用材料・機器事業
PT (プロジェクトチーム) における役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証地域での指導者調整および管理 ・ 実施部活動およびイベント等での運動指導 ・ 指導プログラムの立案と提供

● 実証地域

名称	東京都 日野市教育委員会
コンソ加盟	非加盟
代表者職・氏名	教育部長 村田 幹生
所在地	東京都日野市神明 1 丁目 12 番地の 1
業務内容	教育行政の基本方針や重要施策の審議および意思決定
PT (プロジェクトチーム) における役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証地域における対象中学校との連絡調整 ・ 合同検討会への参加 (事例共有と課題の抽出)

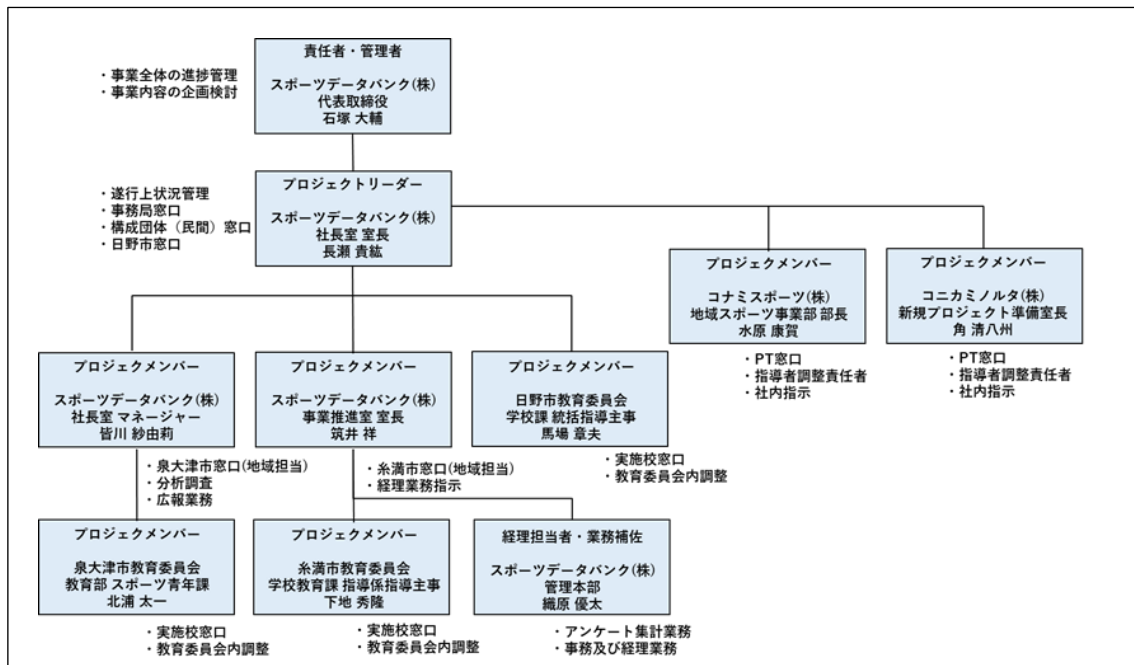
● 実証地域

名称	大阪府 泉大津市教育委員会
コンソ加盟	非加盟
代表者職・氏名	教育長 竹内 悟
所在地	大阪府泉大津市東雲町 9 番 12 号
業務内容	教育行政の基本方針や重要施策の審議および意思決定
PT (プロジェクトチーム) における役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証地域における対象中学校との連絡調整 ・ 合同検討会への参加 (事例共有と課題の抽出)

● 実証地域

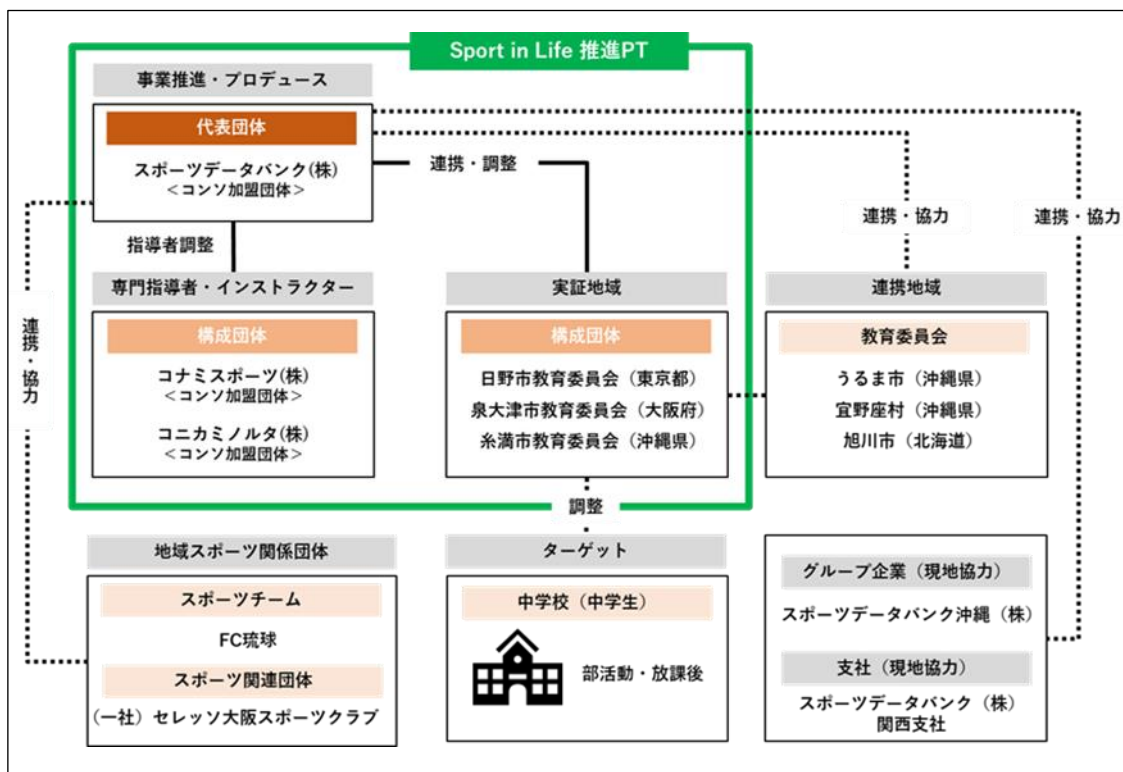
名称	沖縄県 糸満市教育委員会
コンソ加盟	非加盟
代表者職・氏名	教育長 幸地 政行
所在地	沖縄県糸満市潮崎町1丁目1番地
業務内容	教育行政の基本方針や重要施策の審議および意思決定
PT (プロジェクトチーム) における役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証地域における対象中学校との連絡調整 ・ 合同検討会への参加 (事例共有と課題の抽出)

<人員体制>



(2) 本事業の実施スキーム

<PT (プロジェクトチーム) の構成団体について>



5. 事業の実施効果 (スポーツ実施頻度、実施意欲の改善効果)

(1) 効果検証方法

当社グループが東京都教育委員会より受託した「令和2年度エンジョイスポーツプロジェクトモデル事業」では、都立高校のモデル2校において運動部に所属していない生徒をターゲットとして授業や放課後でヨガ・ZUMBAなどの非競技種目の運動機会をつくり、将来にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指す取り組みを行った。

同事業において、モデル校1,427名の生徒を対象とした調査で、運動部未所属生徒の「運動・スポーツをすることが好きである」に対する回答は『やや嫌い・嫌い』の割合が32.3%から27.3%に減少した実績がある。中学生年代に置き換え運動・スポーツすることが好きになる者や、運動・スポーツの実施機会が増加する者の割合を設定する。

項目	期待効果
運動・スポーツすることが好きになる者の割合	平均5%の向上
運動・スポーツ実施機会の増加する者の割合	運動部未所属生徒の平均30%の向上

<効果検証方法等（調査手法、調査項目、調査のタイミングなど）>

調査手法	WEB アンケートによる回答	
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> * 運動・スポーツすることが好きである * 運動部活動への所属 * 所属部活動の満足度 * 専門指導者に対する満足度 	<ul style="list-style-type: none"> * 保護者のスポーツ習慣 * スポーツへの興味・関心 * 興味のある運動・スポーツ * 生活習慣について
	(※) その他、全国体力・運動能力、運動習慣等調査項目 等を参考にして内容を決定する	
調査のタイミング	実証開始前および事業終了時の2回	

(2) 効果検証の結果

● 検証内容の修正と変更

① 比較対象者の変更

新型コロナウイルス感染拡大に伴い当初の計画通りの事業を行うことができなかったため、事業実施を行った東京都日野市・大阪府泉大津市の対象学校のうち、授業・放課後でプログラムを体験した生徒を比較対象として検証を行った。

また、沖縄県糸満市では事業実施ができていないため、効果検証の対象とせず、次年度以降の参考対象として事業終了時のアンケート調査を実施した。

② 検証項目の変更

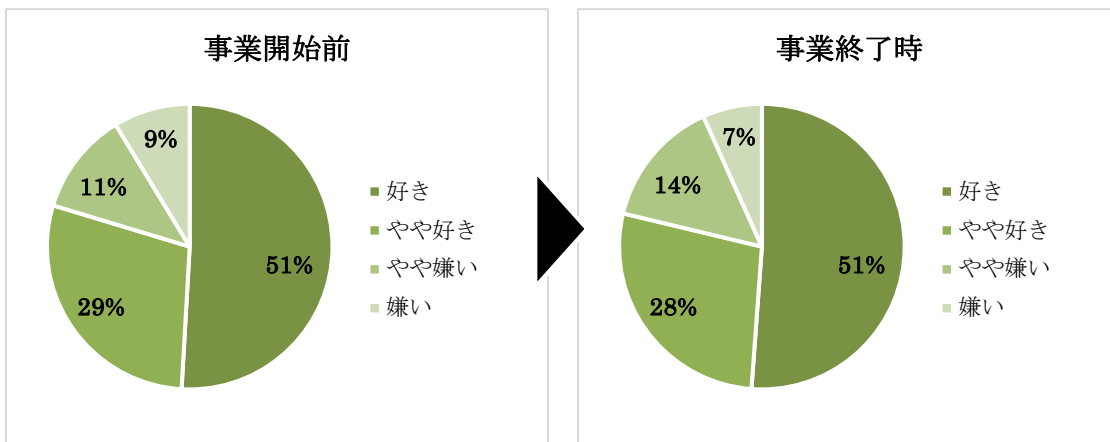
放課後の事業実施を行う環境を設定することができなかったため、事業実施は授業での実施を中心に行った。そのため、検証項目として『将来的な運動・スポーツ実施の意欲』に変更することとした。

<変更後の検証項目>

項目	期待効果
運動・スポーツすることが好きになる者の割合	平均5%の向上
中学校卒業後の自主的な運動・スポーツ実施意欲を持つ者の割合	平均10%の向上

● 効果検証の結果

【項目 ① : 運動・スポーツすることが好きである】



〈結果〉

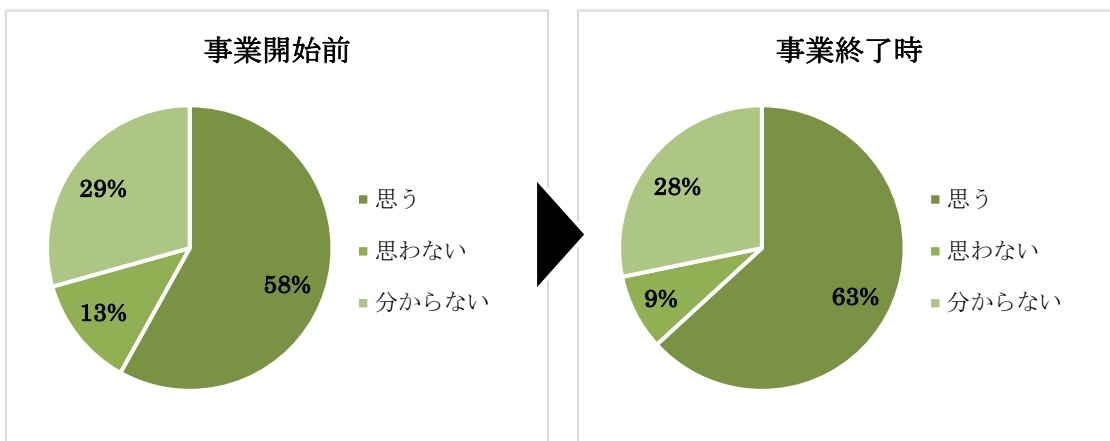
効果として期待していた平均5%以上の向上を達成することはできず、事業実施前後で大きな変化は見られなかった。

〈考察〉

目標を達成できなかった最も大きな要因として、各生徒のプログラム受講を**期間中に複数回受けられる環境を作れなかった点**にあると考える。

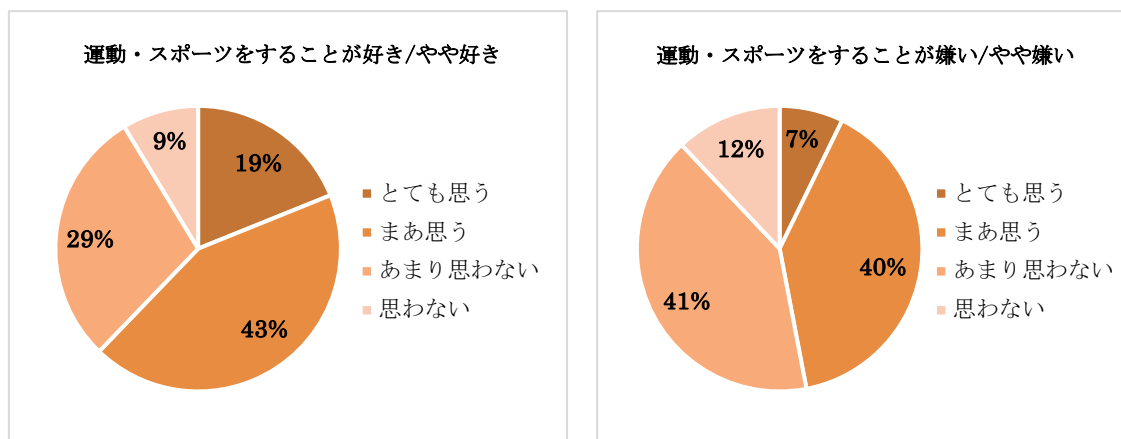
多くの生徒に体育等の授業や運動部活動内でイベント的にプログラムを体験する機会を設けることは出来たが、**繰り返すまたは自主的に参加できる機会の設定が必要になる**と考える。また、今年度はコロナ禍の影響を受け学校カリキュラムの進行に余裕がなく、授業内での実施は学校体育の単元に付随する内容（ダンスやマラソン）が想定よりも多くなり、生徒にとっての新鮮味が少なかったと推察できる。

【項目 ② : 中学校卒業後の自主的な運動・スポーツ実施意欲を持つ者の割合】



<参考：専門指導者・インストラクターの指導を継続的に受けたいと思いますか？>

※事業終了時のみの調査項目



<結果>

目標の平均 10%以上の向上を達成することはできなかったが、平均 5%の向上をした。

<考察>

目標を達成できなかったものの本事業を通して、将来的な『運動・スポーツの意識向上』を図ることができると考えられる。【項目①】考察で記述した通り、繰り返しまたは自主的に参加できる機会を創出することで、更に将来的な意欲や習慣作りを促すことができると考えられる。

一方、参考の調査内容から、運動・スポーツをすることが「好き/やや好き」と「嫌い/やや嫌い」では継続的な受講意欲に差があることも分かったため、プログラムテーマや内容・実施のタイミングなどには課題が残る結果となった。

6. スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証）

事業開始前の仮説の検証として、本事業のターゲットにおけるスポーツ実施改善の要因として以下の通り分析する。

① 運動部未所属生徒へのアプローチ

実施の有無に関わらず、実施計画では、体育の授業内でのプログラム希望はダンスやマラソンなどの学習指導要領に関連した内容で学校ニーズが集中した。その理由として、コロナ禍において授業日数の余裕がない状況を考慮しても、特に生徒の苦手意識に差が出やすいことや担当教員自身が指導に不安があることが多く挙げられた。

体育科の教員であっても専門指導者を活用した授業展開の意欲は高く、運動嫌いな生徒に対して「楽しませる」指導についても専門指導者を活用するメリットとして捉えていることが分かった。

したがって、運動部未所属（運動嫌い）の生徒のスポーツ実施改善として、専門指導者

等を活用した体育の授業展開の方法が年間を通して変化することで、体育科教員の負担軽減や指導力の向上し運動部未所属（運動嫌い）の生徒にとっての「体育」のイメージが変化すると考えられる。

② 運動部活動顧問のニーズ

本事業で計画していた運動部未所属生徒を対象とした放課後プログラム等はコロナ禍の影響を受けほとんどの計画が実施中止となったため、競技性のない緩やかなスポーツ参画等については次年度以降の検証項目とする。

一方、仮設の通り既存の運動部活動を担当する顧問教員からの専門指導者活用のニーズが非常に高かった。本事業で実施した部活動指導においても、競技経験のない教員が受け持つ部活動の専門指導者の活用が多く、各地域で外部指導員や部活動指導員の活用制度は存在するものの、活用が固定化しているため教育委員会としても新たなニーズに対応しきれていない実情も把握した。

今後、スポーツ庁が推進する地域運動部活動の流れを受け、引き続き各地域での新たなスポーツ実施環境の構築が、運動所属（運動好き）の生徒にとってのスポーツ実施の促進を可能にすると考えられる。

7. 本事業から得られた波及効果

① 地域における企業・フィットネスクラブの認知度および価値向上

構成団体のコナミスポーツ（株）は国内屈指の総合型フィットネスクラブとして認知されているが、拠点クラブ外での活動を強化している。本事業での取組みは、同社の各地域の拠点知名度の向上は将来的な会員獲得等にも繋がる可能性や拠点を活用したスポーツ活動などの可能性も生まれた。

また、同じく構成団体のコニカミノルタ（株）と本事業で連携をした日野自動車（株）などは東京都日野市に所在を置く企業であるが、今後は更に自治体との連携を強化してスポーツを通じた新たな地域振興・貢献を目指していく方向性を示している。

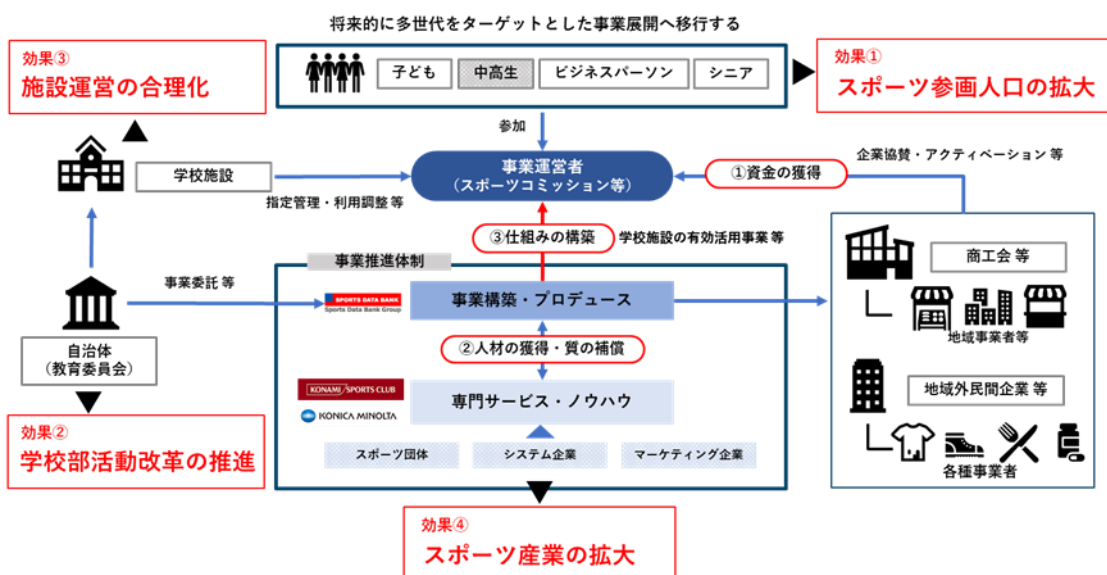
② 学校運動部活動における地域移行ニーズの掘り起こし

教員の部活動における負担を軽減することが、本事業の課題解決にも繋がるということが検証できた。本事業では地域運動部活動の実証を推進する3つの地域（日野市・泉大津市・糸満市）と連携をしていることから、将来的な地域運動部活動への移行のきっかけとして本事業が重要な役割を果たす効果があるといえる。

8. 今後の事業展開予定

(1) 事業継続や横展開に向けたポイント、課題

- **タブレット端末等を活用したオンデマンド・オンライン指導の準備体制の構築**
 学校では「対面」を前提とした計画や要望が中心となるため、平時での事業推進は滞りなく進行が可能である一方、学校現場におけるオンライン・オンデマンドの活用に関する準備や対応に地域差と消極的な側面がある。
 本事業では計画の時点で、対面の代替案としての「非対面（オンライン・オンデマンド）」を予定していたが、次年度は『対面と非対面（オンライン・オンデマンド）』を前提とした実施体制と事業計画の事前準備が必要である。
- **プログラムのメニュー・プラン化**
 本事業では、各学校の管理職・担当教員の意向をヒアリングした上でプログラム提案・調整等を実施したため、個別化するニーズに対応する計画作成・人員配置を行った。
 横展開を行うために、本年度の実績とニーズ・計画を基に、プログラムをメニュー・プラン化することで、学校との調整を簡略化することが必要である。
- **税源の確保**
 本事業が持続的かつ展開するためには下図の通り、自治体・民間企業・団体が連携して、地域・産業の複合的な課題に目を向けることが、結果的に様々な効果と持続可能な収益体制を構築できると考えられる。当事業においても、「学校部活動改革」「学校施設の有効活用」などの事業へ展開していくことを目指す。



(2) 次年度以降の事業継続、横展開の計画

令和4年度
(3地域以上)

● 事業内容の向上

- ・令和3年度 実証地域（日野市・泉大津市・糸満市）での継続
- ・事業のメニュー・プラン化
- ・プロジェクトチーム連携による自治体提案による横展開

令和5年度
(5地域以上)

● 地域間連携・サポート体制の構築

- ・実施希望地域（教育委員会等）へのノウハウ提供
- ・プロジェクトチーム連携による自治体提案による横展開
- ・各地域における事業企画およびサポート

令和6年度
(10地域以上)

● 事業の全国展開・事業の自走化および定着化

- ・事業の自走化モデル地域の創出
- ・ターゲットの拡充（地域住民のスポーツ実施率向上）

(3) 今後の事業展開に向けて期待される Sport in Life プロジェクトにおける取組

● Sport in Life プログラムをプラットフォームとしたマッチング

コンソーシアム加盟団体の取組み事例以外にも、課題や提案をマッチングするイベントや仕組みを作ることで、更にプロジェクト推進に繋がると考える。

また、コンソーシアム加盟を検討する団体にとってのメリットにもなるのではないかと。

9. 終わりに

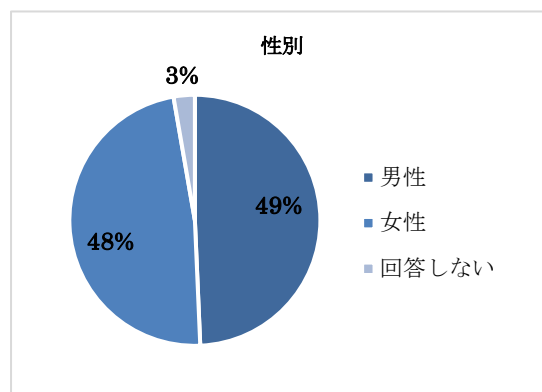
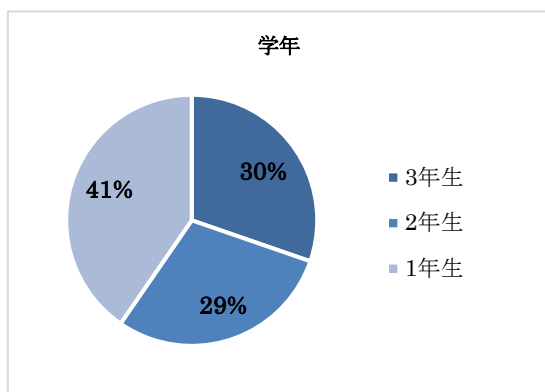
従来、各自治体が単独でスポーツ推進施策等の事業実施を行っているためノウハウや課題の共有ができておらず、事業が展開・拡大がされていない現状があるが、当事業において、当社を代表とした民間企業が主体となり複数の実証地域のコーディネートを行った結果として、実証地域・学校からは継続を希望する声を多く得ており、**各地域間の状況や事例等の情報共有等を実施することで広域地域が一体となった取組みとして機運の醸成を図ることができた**といえる。

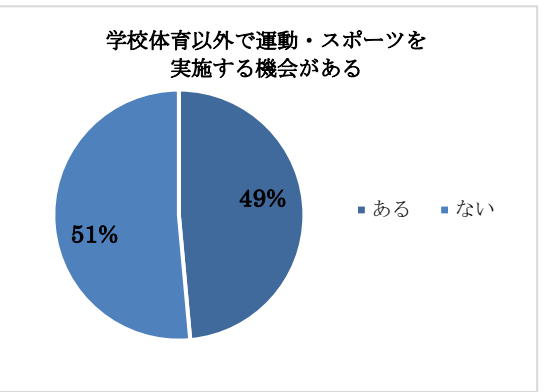
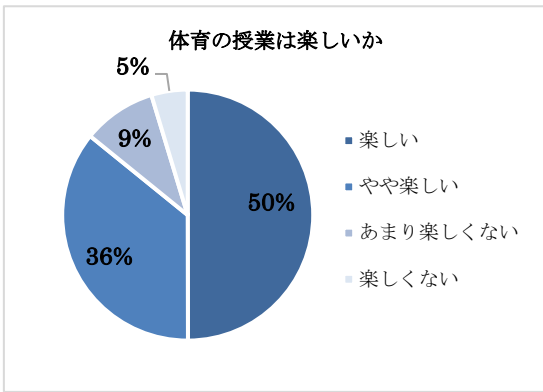
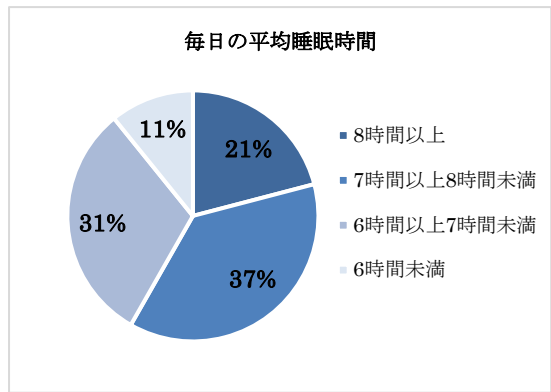
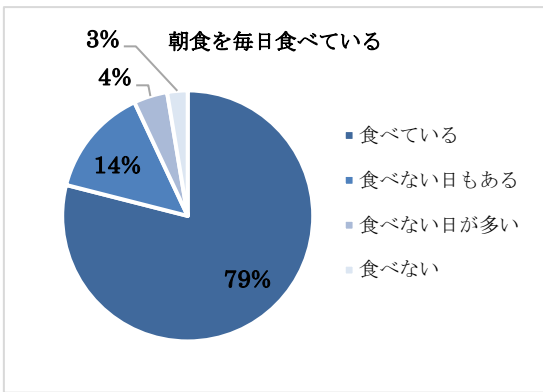
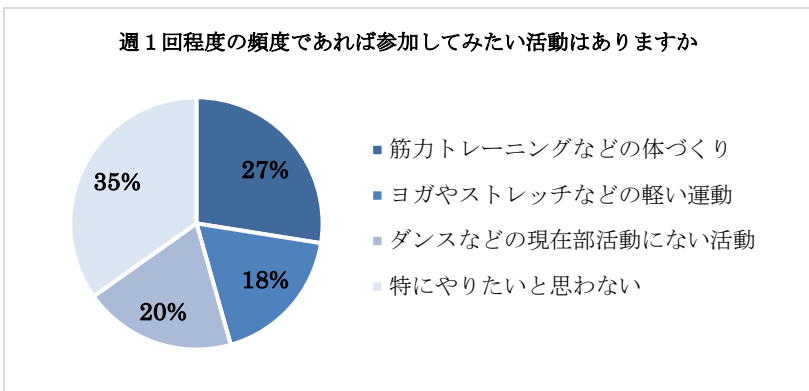
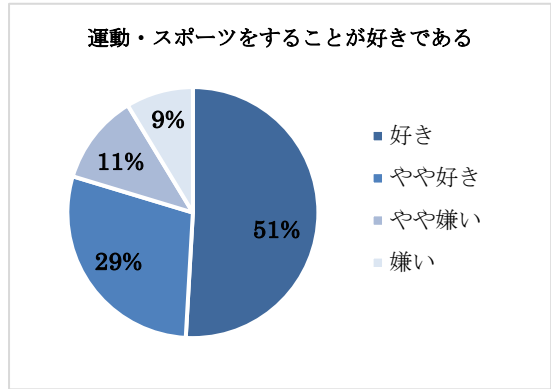
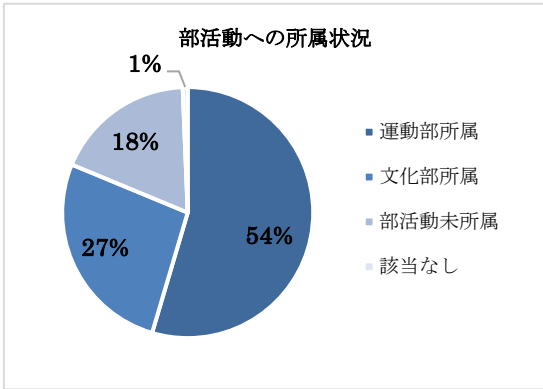
本事業を通して、地域での『情報格差』『コーディネートの重要性』は、事業の横展開を推進する上での最も重要なポイント・課題となり、プロジェクトチームでは、本事業の事例やノウハウを継続して多くの自治体へ情報提供し続ける重要性を再確認した。

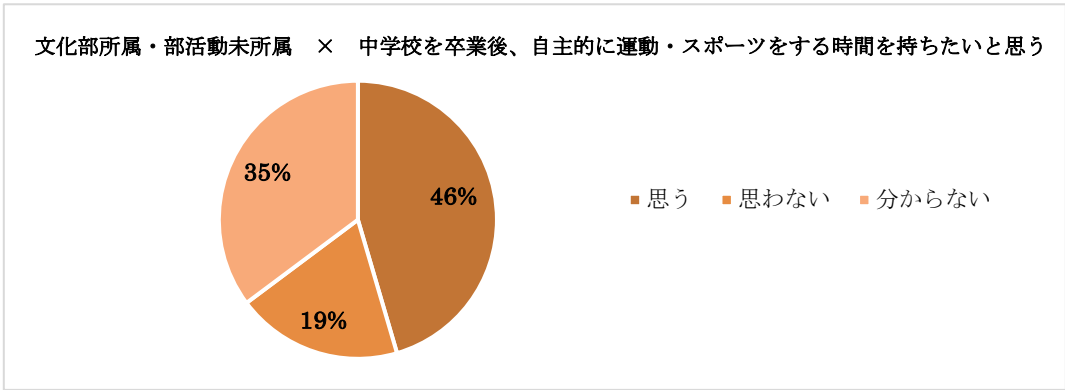
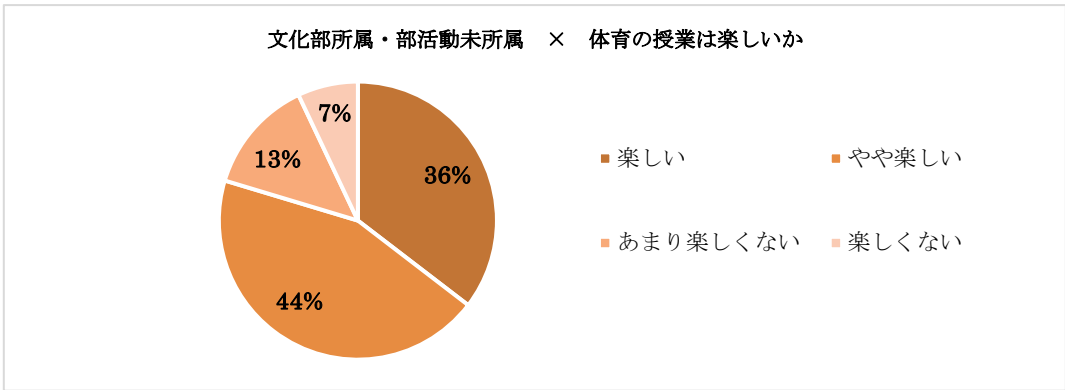
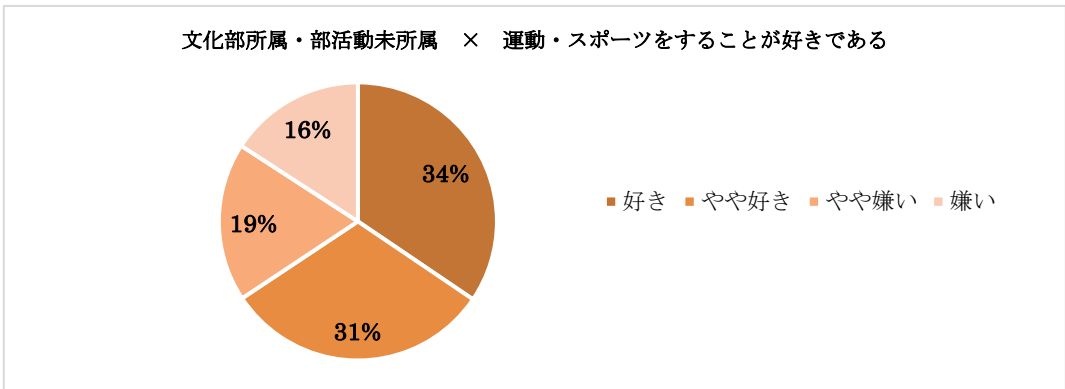
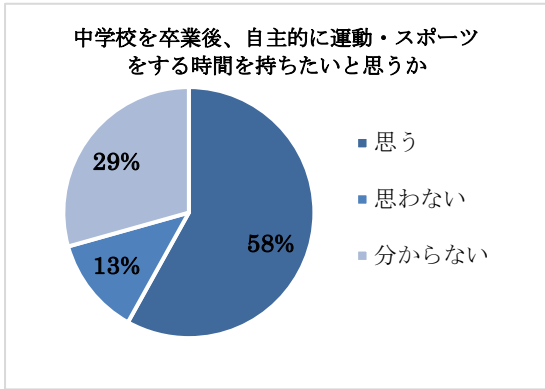
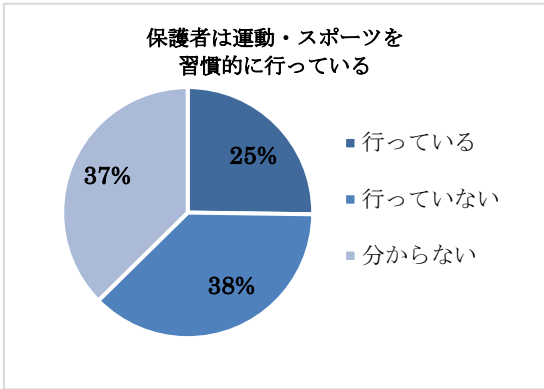
参考資料 アンケート調査票・分析結果詳細

● アンケート調査 1

対象者	東京都日野市立中学校 (4校) 在籍生徒 大阪府泉大津市立中学校 (2校) 在籍生徒 沖縄県糸満市立中学校 (2校) 在籍生徒
実施方法	WEB アンケート
設問	①学年 ②性別 ③部活動への所属状況 ④運動・スポーツすることが好きである ⑤週1回程度の頻度であれば参加してみたい活動 ⑥朝食を毎日食べているか ⑦毎日の平均睡眠時間 ⑧体育の授業は楽しいか ⑨学校体育以外で運動・スポーツを実施する機会がある ※文化部所属・部活動未所属の生徒のみ回答 ⑩保護者は運動・スポーツを習慣的に行っている ⑪中学校を卒業後、自主的に運動・スポーツをする時間を持ちたいと思うか

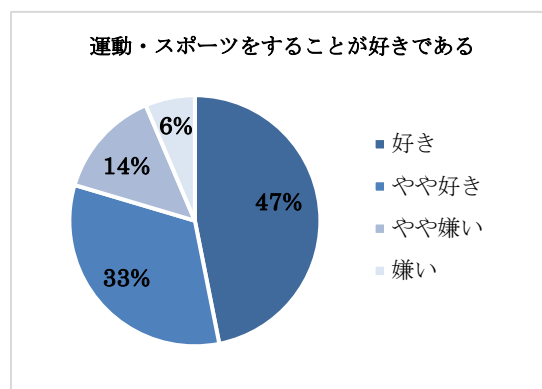
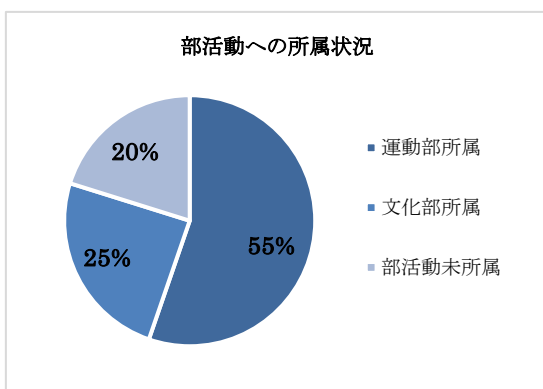
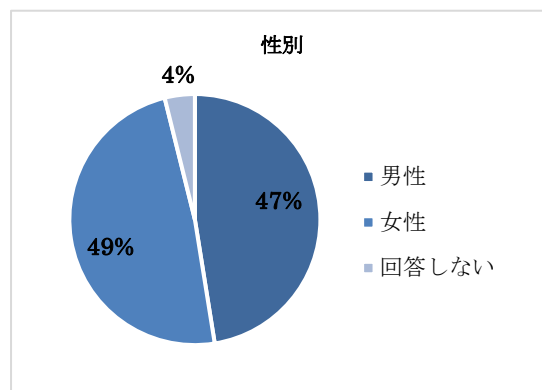
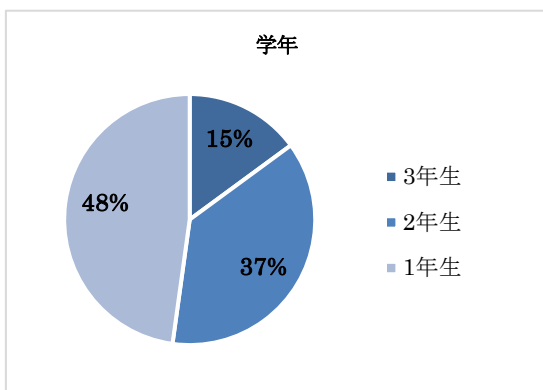


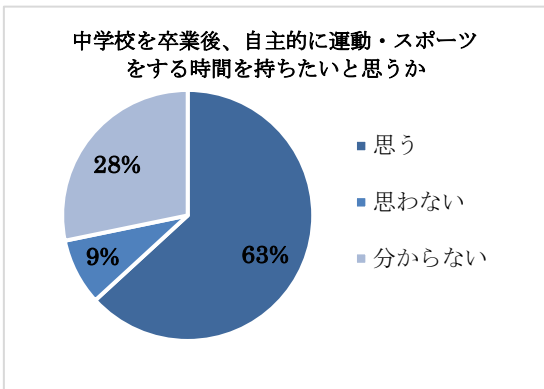
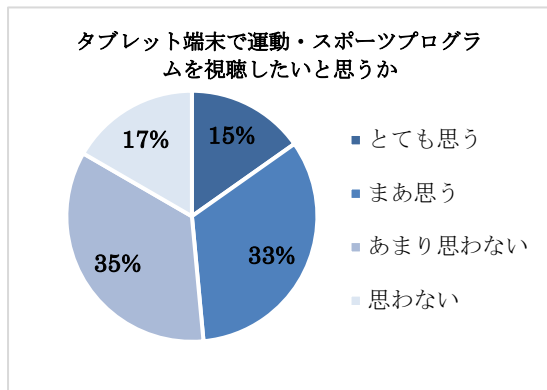
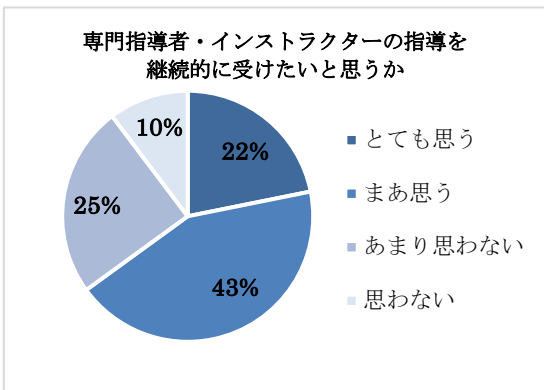
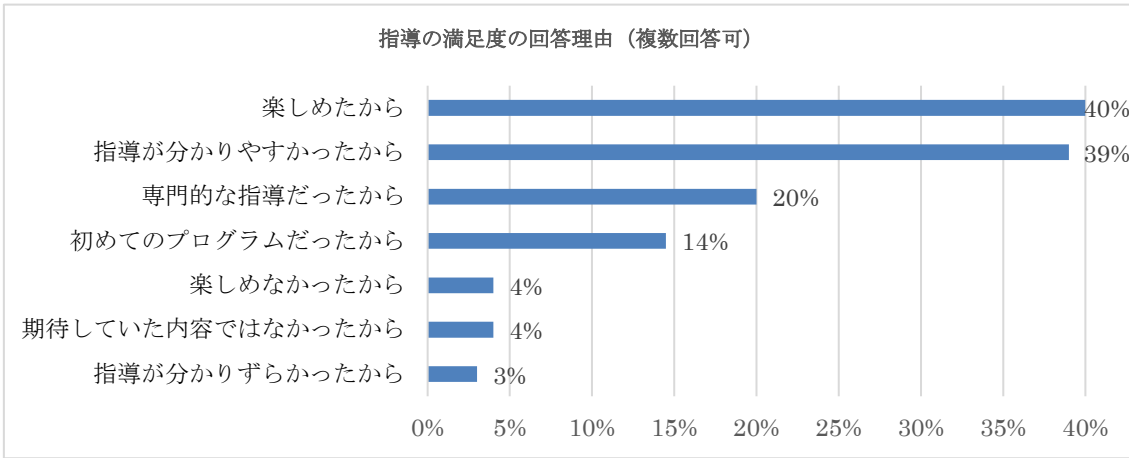
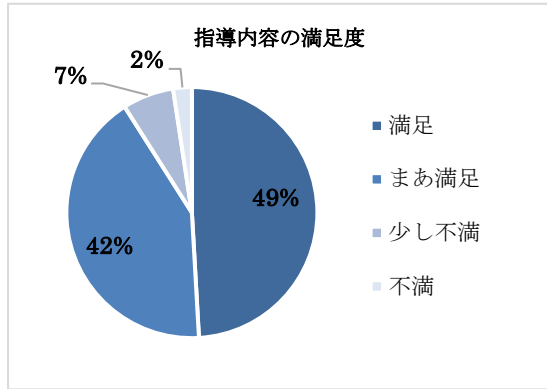
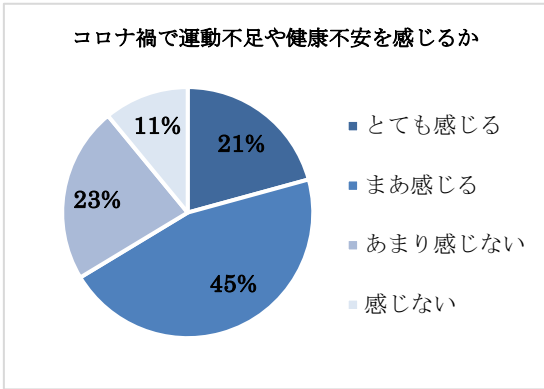




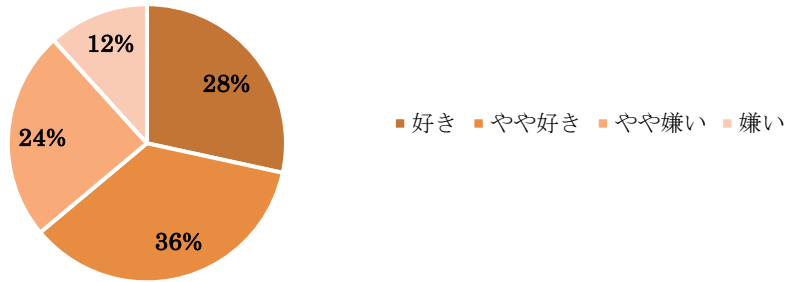
● アンケート調査 2

対象者	東京都日野市立中学校 (4校) 在籍生徒 大阪府泉大津市立中学校 (2校) 在籍生徒 沖縄県糸満市立中学校 (2校) 在籍生徒 ※設問⑥⑦は対象外
実施方法	WEB アンケート
設問	①学年 ②性別 ③部活動への所属状況 ④運動・スポーツすることが好きである ⑤コロナ禍で運動不足や健康不安を感じるか ⑥指導内容の満足度 ⑦⑥の理由 ※⑥⑦は授業・放課後で体験した生徒のみ回答 ⑧専門指導者・インストラクターの指導を継続的に受けたいと思うか ⑨タブレット端末で運動・スポーツプログラムを視聴したいと思うか ⑩中学校を卒業後、自主的に運動・スポーツをする時間を持ちたいと思うか

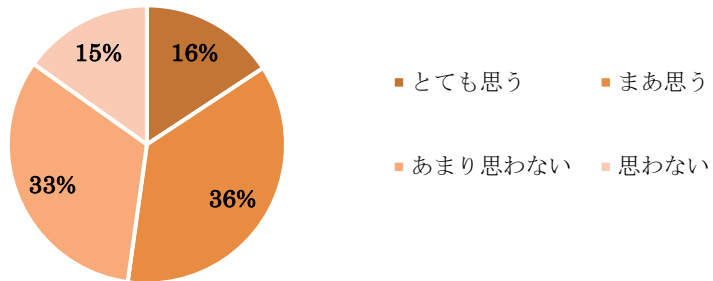




文化部所属・部活動未所属 × 運動・スポーツをすることが好きである



文化部所属・部活動未所属 × 専門指導者・インストラクターの指導を継続的に受けたいと思うか



文化部所属・部活動未所属 × 中学校を卒業後、自主的に運動・スポーツをする時間を持ちたいと思うか

